

# ふれあい広場

このページは市民の皆さんと一緒に作るページです。投稿・登場をお待ちしています。秘書広報課（市役所内線3052）

## クローズアップ

今、「旬」の人や団体を紹介します。



### 旧来住家住宅で来館者を案内するボランティアガイドの皆さん

（前列右から時計回りに）高瀬千津子さん、笹倉美樹さん、絹川保子さん、来住修さん、時本洋子さん、西脇TMO推進室長 岸正博さん、吉川徹さん

**地域の誇りをこれからも伝え続けたい**

「来住邸」の名で親しまれる旧来住家住宅は、8月3日に来館30万人を突破しました（8月に関連記事）。ボランティアガイドの皆さんは、開館以来約20年にわたり、来館者に来住邸の魅力を伝え続けています。

来住邸は、銀行家・来住梅吉氏の邸宅として大正7年に建築されました。平成13年に市に寄贈されたのち、平成15年からは、中心市街地の活性化を担う「西脇TMO推進室」の管理のもと、まちづくりの拠点として、また観光名所として親しまれています。

西脇TMO推進室に所属するボランティアガイドは現在6人ですが、これまで延べ17人がガイドとして活躍してきました。ガイドを始めたい方は、「歴史が好きだから」「誘われて」など、さまざまに理由があります。

来住邸は、国の登録有形文化財でもあり、宮大工や左官職人が見学に訪れるほど。「時には答えに困る質問を受けることもあるが、それが勉強のきっかけになる」と、年月とともに知識を積み重ねてきたガイドの皆さん。

「来住邸は、貴重な木材や高い建築技術など見どころがたくさんある。季節ごとの感動があり、その都度新しい魅力が発見できる場所」と話します。

来住邸には全国各地の人が訪れますが、西脇市に住んでいても存在を知らない人もいます。「来住邸は地域の誇り。市民の皆さんにもぜひ来てもらいたい」と呼び掛けました。

市民の皆さんのまちづくり活動をご紹介します

## みんなでまちづくり♪

「比延地区のよいこる写真」を募集します

見どころいっぱい比延地区の写真を募集します。応募作品の中から12作品を選び、2022年の比延地区年間カレンダーを作ります。

▼テーマ 比延地区の風景写真

▼募集締切 9月30日（木）

▼応募資格 どなたでも

▼注意事項 1人につき2点以内、未発表のもの

▼応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入の上、写真（2リサイズ）を裏面に添付し、左記まで持参または郵送。応募用紙はこみせん比也野などで配布

▼応募・問合せ 〒677-0033 西脇市鹿野町720-1 比延地区自治協議会（☎24-0120）



## いきいきにしわきっ子



竹本 りくと  
1歳5ヵ月

笑顔いっぱい元気に育ててね  
知広・靖子（和町）

いきいきにしわきっ子を募集しています。写真と紹介文、連絡先を市役所秘書広報課へ郵送またはご持参ください。

地域に信頼される良質な医療を提供します

# 西脇病院

〒677-0043  
西脇市下戸田 652-1  
☎22-0111 ☎23-0699

実施中  
新型コロナ院内感染防止対策

・マスク着用と自宅での検温  
・全入院棟への入館を禁止  
にご協力ください

## ひだまりサロン

▼とき 9月22日（水）午後1時～3時／要申し込み

▼対象 がん体験者ごその家族

▼内容 交流会と臨床心理士のミニ講座（インターネットを利用して自宅から参加）

▼申込方法 前日までにメール（タイトルは「ひだまりサロン参加希望」）で左記へ

▼申込み・問合せ がん相談支援センター（病院内線331）[hikimari@nshp.jp](mailto:hikimari@nshp.jp)

▼とき 9月25日（土）午後2時～4時／申し込み不要

▼ところ 病院講堂（2階）

▼対象 乳がん経験者とその家族

## はなみずきの会

▼内容 治療相談

▼参加費 非会員のみ500円必要

▼問合せ 乳腺外科 三輪 [nyugan@yahoo.co.jp](mailto:nyugan@yahoo.co.jp)

**令和4年4月採用職員募集**

言語聴覚士、社会福祉士、看護師、助産師、一般事務職（医療事務）を募集します。

▼受付期間 9月6日（月）～10月1日（金）／郵送でのみ受け付け（必着）

▼申込方法 申込書を左記へ。申込書等は病院ホームページからダウンロードできます

▼試験日 10月20日（水）／筆記・面接審査

▼申込み・問合せ 病院総務課（病院内線364）

## 健康バンザイ 181



麻酔科部長  
坂本昇太郎

**带状疱疹 急増中**

带状疱疹は体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、それに続いて赤い斑点や水ぶくれが帯状にな

って現れる病気です。幼少期水ぼうそうにかかったときに体内に入り込んだウイルスが潜在しており、体が弱ったときに再活性化して痛みや発疹を引き起こします。80歳までに3人に1人が発症するといわれています。50歳以上の人が带状疱疹にかかると、2割の人が带状疱疹後神経痛となり、皮膚の症状が落ち着いた後も

強い痛みだけが残る場合があります。

平成26年10月からは幼児への水痘ワクチン定期接種が開始され、水ぼうそう患者が激減しました。これにより、それまでに水ぼうそうにかかった人は、水痘带状疱疹ウイルスに対する免疫力がどんどん低下し、今、带状疱疹の発症率が急上昇しています。平成28年には50歳以上へ、带状

疹ワクチンの接種が認められました。ワクチン接種によって带状疱疹の発症率や帯状疹後神経痛への移行を減少させることができます。ワクチンの効果は8～10年です。ウイルスたんぱく質の一部のみを注射するので、免疫抑制状態の方でも安全に接種できます。接種を希望される方は一度かかりつけ医、または西脇病院へご相談ください。

## 患者総合支援センター「医療連携課」はこんなところ 地域の医療機関との連携窓口



西脇病院では地域の医療機関（診療所や病院）と役割分担し、患者さんを紹介し合う取り組み（病診・病病連携）を強化しています。西脇病院を初めて受診するときは、かかりつけ医からの紹介状の持参にご協力をお願いします。

- 「医療連携課」では、
- ①当院がかかりつけ医からの紹介を受けるための予約受け付け
  - ②当院を紹介した地域の医療機関への患者さんの来院報告など
  - ③他の医療機関を受診するときの診察予約
  - ④当院を受診した患者さんへの、かかりつけ医の紹介
  - ⑤地域の医療機関向けの情報誌の発行
- といった、地域の医療機関との連携による患者の受け入れや、症状安定後の紹介元への再受診などを円滑に進める業務を行っています。
- ◆問合せ 患者総合支援センター医療連携課（病院内線 308）